

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 108-0075
 住 所 東京都港区港南2-18-1JRイーストビル
 氏 名 株式会社 GFF
 代表取締役社長 印
 清水祐介
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例第11条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	株式会社 GFF		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区東扇島6-10 かわさきファズA棟3-9		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	09	食料品製造業
主たる事業 の内容	ゼンショーホールディングスグループへの食材の供給		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	2,728	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	2021 年度 ~ 2023 年度 (報告年度 2023 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2020年度)	(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	
排出量 (t-CO2)	(実) 4,915	(実) 5,401	(実) 5,622	(実) 5,414	(実) 4,748
	(調) 4,829	(調) 5,374	(調) 5,616	(調) 4,952	(調) 4,665
削減率		(実) -9.9 %	(実) -14.4 %	(実) -10.2 %	(実) 3.4 %
		(調) -11.3 %	(調) -16.3 %	(調) -2.5 %	(調) 3.4 %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

	製造重量				原単位等の単位	t-CO2/ton
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度		
	(2020年度)	(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	目標とした値	
排出量原単位等の値	0.1797	0.1812	0.1909	0.1826	0.1737	
活動量の値	27,350	29,798	29,444	29,646	-	
排出量原単位等の削減率		-0.8 %	-6.2 %	-1.6 %	3.3 %	

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	製造量が大幅に上昇したため、連動して、エネルギー使用量も上昇したが、固定使用量分を吸収する形となった。	
第2年度	製造量が減少したが、エネルギー使用量が増加したため、原単位は増加した。	
第3年度	製造量は増加したが、エネルギー使用量が下がったため、原単位は減少した。	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)		製造量は現行設備での限界値にきていると思われます。 ユーティリティ設備のO/Hを進めたことでエネルギー使用量の削減に繋がったと考えています。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		生産設備及びユーティリティ設備で工場設立当初から使用しているものがあるので、適宜更新をする。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>A 社内他工場との情報共有と横展開 B ビルオーナーとの協業 C 現場作業員への省エネルギー教育と訓練、監視 D 設備更新時、高効率設備への更新 E 自動台数制御していない設備を自動台数制御化する F 定期メンテナンスの計画化と実施</p>
<p>第1年度</p>	<p>社内他工場との情報共有は、週一回実施。 ビルオーナーとの協業は、2021年11月に情報共有し、組織図に入れさせて頂いた。 現場作業員への教育のために、作業要領書の作成を進めた。 空調の更新は、3式実施した。冷媒は、R22⇒R463A-Jを採用。 定期メンテナンスは、日次ルーティン化し、設備担当に週間で日次計画を作成する仕組みを作った。</p>
<p>第2年度</p>	<p>A 社内他工場との情報共有は、引き続き週一回実施。 C 作業要領書の作成を継続、できたものは現場作業員へ教育中。 F 定期メンテナンス内容のリストを作成し、メンテナンスの抜け漏れが無くなる仕組みを作った。</p>
<p>第3年度</p>	<p>A 社内他工場との情報共有は、引き続き週一回実施。 D 2024、2025年度でR22更新工事を進める方向で進めています。 F 設備の停止内容の記録をつける仕組みを作った。 故障頻度の多い内容は定期メンテナンスに組み込み、リストを作成中です。</p>
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>A エネルギー管理企画推進者の入れ替わりが激しく、省エネ教育・情報共有の仕組みをもう一度考え直す必要があると感じました。 D 高効率設備及び空調機については適宜更新しているので引継ぎ次回の計画で実施します。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他()		
その他()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
同上		

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム(FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他()	
EV、PHV、FCV	×	その他()	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	特になし
第1年度	特になし
第2年度	特になし
第3年度	特になし

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	特になし
第1年度	特になし
第2年度	特になし
第3年度	特になし

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源CO ₂ 排出量	4,915 t-CO ₂	5,401 t-CO ₂	5,622 t-CO ₂	5,414 t-CO ₂
原油換算エネルギー使用量	2,480 KL	2,761 KL	2,812 KL	2,728 KL
事業所の数	2	2	2	2

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
南関東第一工場	神奈川県川崎市川崎区東扇島6-10 かわさきファズム棟3-2	4,538	5,052	5,275	5,121

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度